



復活節第 6 主日 (ヨハネ 15:9-17)

最も価値ある見方で人を見る、接する

今年の復活節第 6 主日は、「互いに愛し合いなさい」というイエスの最高の掟が示されました。わたしたちがイエスの掟を喜んで受け入れ、実行するきっかけを得ることにしましょう。説教案は 3 年前のものを参考にしています。

聖母月、夕方のロザリオの信心が始まりました。5 月初め、趣味の釣りで鯛を 4 枚釣り上げたので、浜串教会のロザリオに参加した人たちに配りました。ほかにイトヨリ、ホウボウなども釣れていました。

争いにならないように「5 月中に 50 枚くらい鯛を釣る予定ですので、慌てなくて結構です。今日当たらなかつた人も、また次のチャンスがあります」と大見えを切りました。約束を果たせなかつたらごめんなさい。

今日母の日なので、実家に立ち寄ってついでに晩御飯を一緒にしようかと思っています。カーネーションを買っていくのは恥ずかしいので、できれば魚を釣って、わたしがさばいて、お刺身をご馳走してあげようと思っています。そういうわけで、本日ミサ後に釣りに行くのをお許してください。

選ばれた福音朗読の中で、イエスの次の語りかけに注目しました。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」(15・12)

イエスは掟を弟子たちに示しました。「掟」ということばは、日本語では「社会の定め、決まり」という意味ですが、聖書の世界での「掟」は、神が人間に与える指示、イエスが弟子たちに与える指示という意味があります。人間の掟を破っても、人間として生きることはできますが、神の掟、イエスの掟を破れば、人間は神との絆、イエスとの関わりを失ってしまい、霊的に死んでしまうのです。

すると、イエスが弟子たちに「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」と仰ったのは、たいへん重いことなのだと分かります。互いに愛し合う生き方をしなければ、わたしたちは神との絆、イエスとの絆を失ってしまうのです。

人を、愛する相手として見ること。わたしは、この見方が他のどんな見方よりも人を価値あるものとして見る生き方だと思います。わたしたちはこの世界の人々をいろんな見方で見ています。見知らぬ人、知り合い、友人、親戚、兄弟、家族などです。

その人をどう見るかで、わたしたちは接し方も変えています。見知らぬ人には、それほど親身になることはありませんが、兄弟や家族には、最後まで心配したり面倒を見たりするのです。その中で、愛する人への接し方がいちばん相手を大切にします。イエスは、互いが互いを、愛する人として接する。これを掟として残しました。

それは、人を、最も価値ある見方で見なさいという招きでもあるの

です。いちばん相手を大切にする見方、いちばん相手を価値ある者と見る見方を、わたしたちに求めているのです。

実際、イエスがそのようにわたしたちを見てくださいました。ある時ファリサイ派の人が、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。」(ルカ 7・39) という場面がありました。イエスはこの時も、女性をいつものように価値ある人として見てくださいました。

また神殿でファリサイ派の人が祈った時も、「神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。」(18・1) と言いましたが、イエスは徴税人を価値ある者としてくださいました。イエスの模範に、わたしたちは謙虚に従う必要があります。

わたしたちの生活を振り返ってみましょう。誰か自分よりも劣る人を心の中に置いて、わたしはあの人よりはましだと、自分を慰めてはいないでしょうか。イエスは違う生き方を求めています。あなたが自分より劣ると思っているその人を愛してあげなさい。自分よりも劣る人としてではなく、価値ある人として接しなさい。そう呼びかけるのです。

イエスの呼びかけは守れる人だけ守ってくださいという呼びかけではありません。払える人だけ払ってくださいという指示ではありません。すべての人が、神との絆を失わないために、神の愛にとどまって生きるために、イエスが求めている指示なのです。

わたしは、毎日の生活の中で接しているいろんな人をどのように見ているのでしょうか。いちばん価値のある見方、つまりその人を愛するという態度で接してみましょう。すると、今までは見落としていた目の前の人の価値、良い所が発見できるでしょう。そして互いに愛し合う生き方を選ぶなら、わたしたちはイエスと心を通わせる友となれるのです。

今週は、世界広報の日でもあります。イエスが自ら模範を示し、掟として与えた互いに愛し合う生き方、相手を価値ある人として接する生き方を生活の中で証しして、この世界にイエス・キリストを告げ知らせる者となれますように。そのための力をミサの中で願いましょう。

主の昇天(マルコ 16:15-20)